

戸田康之さん『透明マスク』（2月1日配信）

戸田です。よろしく。

今日は、マスクについてお話しします。

今、新型コロナウイルスの流行で、マスクをつけるのが当たり前になっていますよね。手話通訳に関わる人たちは、普通のマスクではなく口元を見せるために透明マスクをつけるようになってきました。手話通訳の場合、双方向のコミュニケーションではなく通訳者が一方的に手話で伝えるので、口の動きを見せることも必要ですから透明マスクはいいと思います。また、難聴者や中途失聴者は音声日本語に合わせて手話を使いますから、日本語対応手話の場合も口の動きが大切です。口の動きが分からなければ意思疎通にズレが出てしまうのでやはり透明マスクは有用です。このことについては、世間の理解が徐々に深まりつつあるようです。聴覚障害者には、通常のマスクだと口元が見えず相手が何を言っているのか分からないから透明マスクが必要なのだ、という理解は浸透してきています。

では、日本手話の場合はどうでしょうか。日本手話の場合も透明マスクをつけなければならないんだ、という誤解が広まってしまふことを私は非常に危惧しています。

確かに日本手話の場合も口形があることで分かりやすくなる面はありますが、日本手話の要素はそれだけではありません。日本手話における文法は眉の動き、頷き、肩の動きなど、口の他にも身体の色々な部分に意味を持ちます。ですから、普通のマスクをつけていて口の動きが見えない状態であっても、それ以外の部分で情報が獲得できるので問題なく意思疎通ができるんです。

例えば、ろう学校の生徒の場合です。私は埼玉県のろう学校で教員をしていますが、ろう学校の生徒たちは透明マスクは使わず普通のマスクで授業を受けています。でも生徒同士は手話で普通に会話しています。分からない部分があったとしても、そこを改めて確認し合うことですねやり取りできています。日本手話であれば、透明マスクにこだわらず普通のマスクをしていても身体の様々な部分で文法的な意味をつかんでコミュニケーションをとることができるんです。

私は今、ろう学校の幼稚部に勤務しています。幼稚部の子どもたちも普通のマスクをしています。教える私も同じように普通のマスクです。絵本の読み聞かせをする時も透明マスクは使いませんが、子どもたちはちゃんと物語を理解しています。読み聞かせが白熱するあまりマスクがだんだん顎の方に下がってしまふのですが、それに気付かずやっていると、子どもたちの方から「先生、マスクちゃんと直して」と言われてしまふ始末です。幼稚部の子どもたちとも、お互いにマスクをしたままだもちゃんと疎通できます。

透明マスクによってどのような誤解が起こるかという点、『手話には口形が必要だ』という考え方が、やがて『口話教育が必要だから、ろう学校の教育では口形を覚えなければならないのだ』と曲解されて、昔のような口話教育に戻ってしまうのではないかと、私には危惧しています。日本手話なら、透明マスクにこだわらなくても、普通のマスクで十分コミュニケーションできるんだということをご存知いただきたいと思います。

この動画を見ているろう学校の先生がいらっしゃったら、きっとご自身の学校では透明マスクを使っていることと思います。試しに一度、普通のマスクで、日本手話で、授業をやってみては？意外とすんなりいくかもしれませんよ。